令和８年８月 10 日　　東京都産業教育振興会　　第１７０号

東京の産業と教育

No. 170

会　の　目　的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

「理念とミッションで人は成長する　志は高く身は低く」

東京都産業教育振興会　理事
株式会社ハチオウ　相談役(前社長)　森　裕子

１　我社の事業

少量多品種の化学系廃棄物の無害化処理、この適切な排出源管理は難しいことから、大学や民間企業に社員を派遣し、職員や学生と一緒になって廃棄物の保管管理や法令上の手続き、廃棄方法の教育を含めた排出現場の管理をサポートしています。

２　事業の取組事例

一般のわかり易いテーマでは東日本大震災に伴う帰宅困難区域での作業があげられます。放射線問題もあるなか現地に散乱した化学薬品を処理することは難易度が高いことは明らかでした。「ハチオウがやらなくては誰がやる」という社員の気概のもと協力会社 10 社と共に弊社のリーダーシップのもと現地入りし、約１年半にわたり撤去作業を行い評価をいただきました。皆で話し合い習慣として身につけている、ハチオウの方針に則って行動し、この危険で難易度の高い仕事を成功に導いたのです。

私たちの仕事は生産技術の革新や高度化が進むに伴い多様な化学物質が用いられて同時に廃棄されます。それにともなって高度な知識や技術が必要とされます。

３　大切にしたいこと（考え方）

1970 年公害国会が開かれた頃の創業でした。まったくパイオニアの世界でした。この国の将来を支える若い人に取り組んでもらわなければいけないと考えました。新卒採用です。事業ミッションを学生はもとより学校・ご両親・ご家庭に理解していただくのは至難の業でした。その時、くりかえし話したのは理念とミッションです。

理念　一つ　ありがとう　という　感謝の心
二つ　すみません　という　反省の心
三つ　はい　という　素直な心
四つ　おかげさまで　という　謙虚な心
五つ　私がします　という　奉仕の心

これをひとことで言えばはじめに人の道あり。このことばの出所は紙面の都合でさけますが、利他の精神につながります。このことが社会の一員として根底にあることが重要です。その次にミッションです。

ミッション　社会に役立つ具体的な活動

冒頭にお伝えした少量多品種の化学系の廃棄物の無害化処理あなたは何をもって覚えられたいですか、あなたの会社は何をもっておぼえられたいですか（ピータードラッカー）、これへの答となります。

才と徳、論語にあります。はじめに徳ありです。はじめに理念です。下座に生きるということです。そうした土壌で仕事を覚えることです。生き方、考え方、在り方を間違えるとどんな有能な人でも大きなつまずきとなる事例が多くあります。

はじめに理念あり。次にミッションあり、志は高く身は低くです。

これは幸せな人生をおくる根幹と思います。

会報第１７０号のコンテンツ

1ｐ；巻頭言　　2ｐ；実践報告　3ｐ；実践報告　　4ｐ；在校生からのメッセージ
5ｐ；卒業生からのメッセージ　6ｐ；産業界からのメッセージ
7ｐ；産学懇談会（第１回）等　8ｐ；総会・講演会報告, 作文コンクール作品募集

【実践報告】
「都庁都民広場花壇の秋季花植えの取組と生徒の変容について」

東京都立農業高等学校　主任教諭　内藤　知子

１　はじめに

本校は、明治 42 年東京府北多摩郡立農業学校として開校した。数回の改称を経て昭和 25 年東京都立農業高等学校へと改称し 117 年の歴史がある。現在は農業科に都市園芸科、緑地計画科、食品科学科、家庭科に服飾科、食物科の５科を設置している。また、調布市には神代農場を有し、豊富な湧き水を活かして、餅米の栽培、ニジマスの養殖、ワサビの栽培などをはじめ、武蔵野の自然が残された貴重な場所として自然環境を生かした生徒の実習地として活用している。

２　本校緑地計画科での取組

緑地計画科では、卒業後の進路を考えたカリキュラムを編成している。造園や農業土木といった関連産業への就職だけでなく、進学や他の職種も含めて生徒のキャリアデザインの支援を３年間通して行っている。２年夏の造園技能士３級受験と全員合格、２年秋の都庁花壇の植栽、緑地計画科学習の集大成として３年の卒業庭園造成を柱として、土壌生物の観察やインセクトホテルなどの作成、府中市のシンボルである馬場大門のケヤキ並木保護更新プロジェクトへの参加、小金井市の名勝小金井桜繁殖・更新プロジェクト活動などを行うことで、環境系学科に求められる専門技術を身に付けるとともに、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を向上させ環境保全、生物多様性、協働の重要性を考える機会としている。

３　都庁都民広場花壇の植栽

都庁都民広場の花壇の植栽は、平成３年（1991 年）の都庁舎移転に伴い、都民に憩いの空間を提供することを目的としてはじまった。都立高校生による「都庁花壇（都民広場花壇）」の植栽活動は、春、秋の年２回を担当している。農業系や園芸系の都立高校（園芸高校、農芸高校、農産高校、瑞穂農芸高校、農業高校、青梅総合高校）が主体となって、デザインから苗の栽培、植え付けまでを行っている。

４　緑地計画科の都庁花壇の取組と成果

本校では、年２回の都庁花壇植栽のうち、春を都市園芸科、秋を緑地計画科が担当している。緑地計画科では、科目「造園植栽」の中で都庁花壇の植栽を通して、草花の栽培と活用、施工について学んでいる。１学期より生徒一人一人が草花の学習とともにそれらを生かした花壇のテーマと図案を作成し、クラスでプレゼンテーションを行い、図案の候補を決定する。候補の図案は花壇として表現できるか、秋から冬の植栽として適切な植物種であるかなどを図案制作者に確認し、図案を最終調整し、使用する草花を決定する。

植栽当日は、図案制作者を含む 10 名程度で施工を行う。まずは、花壇周辺をブルーシート等で養生し、前回の草花の片付け、整地を行う。次に図案をもとに花壇を区画分けして、植物の植える位置を確認する。複雑な形の場合には事前に型枠を作成して持ち込み、図案に合わせて花壇の中央より植付ける。最後に、縁石や花壇周りをきれいにして完了する。

都庁花壇の植栽については、生徒自ら考案したデザインが実際に花壇として作成され、多くの人の目に触れるものとなり、貴重な発表の場（アウトプットの機会）となっている。都庁花壇の植栽は、庭園造りの基本となる、デザイン、図面制作、施工についての導入として重要な位置付けである。これらの経験を生かして３年生の卒業庭園制作につなげている。

５　おわりに

都庁花壇植栽で体験し、身に付けた能力は、卒業庭園制作を経験させることで環境系産業への興味関心や大学進学への意欲向上へとつながり、今後の産業社会を支える人材となることを期待している。今後も、高校２年生として成長させる教材として都庁花壇制作に取り組んでいきたい。

【実践報告】
「NASFE JAPAN 全日本高校ｅスポーツ選手権への取り組みと成果」

東京都立町田工科高等学校 ｅスポーツ部顧問　教諭　若月　優弥

１　はじめに

本校は都立唯一の総合情報科を擁し、情報・デジタル技術を軸としたものづくり人材の育成を使命としている。近年、ｅスポーツは単なる娯楽の枠を超え、チームワーク・情報処理能力・状況判断力など、社会においても必要とされる多様な資質を育む教育的活動として注目されている。本校においてもその可能性に着目し、ｅ スポーツ部の活動を通じて生徒の主体的な成長を支援してきた。

２　部の概要と活動環境

本校ｅスポーツ部は、部活動指導員をはじめ、専門的な技術指導のもと日々活動している。指導員は競技経験を活かした実践的なコーチングを担い、顧問教員との連携によって生徒一人ひとりの成長を支える体制を整えている。

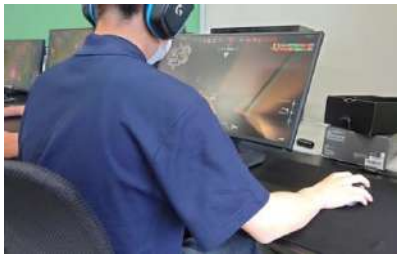
活動環境としては、全日制都立学校としては珍しくゲーミングPCを10台保有しており、生徒が本格的な競技環境で練習に取り組むことができる。対外活動としては、プロｅスポーツチーム「V3Esports」のユース部門（プロ選手養成チーム）と連携する都内のｅスポーツ専門学校との合同練習会を定期的に実施しており、VALORANT部門ではプロ志向の高い選手たちとのスクリム（練習試合）を通じて実践的な経験を積んでいる。また、部内では定期的なミーティングを実施し、戦術の共有・試合の振り返り・部員間のコミュニケーション促進に努めている。ｅ スポーツはオンラインで個々が完結しがちな活動でもあるが、こうした取組みを積み重ねることで、チームとしての結束力と目標に向かう姿勢を培ってきた。

３　大会への取組みと成果

NASEF JAPAN（特定非営利活動法人国際教育ｅ スポーツ連盟ネットワーク日本本部）が主催する「全日本高校ｅスポーツ選手権」は、全国の高校生を対象とした公式大会であり、VALORANT・Apex Legends・リーグ・オブ・レジェンドなど複数のタイトル部門で日本一を競う。全国を東日本・西日本の全日制・通信制の４ブロックに分けてオンライン予選を実施し、各ブロック上位チームが全国決勝に進出する方式で行われる。本校はこの大会に、部員それぞれが得意とするタイトルで継続的に挑戦し、着実に成果を積み上げてきた。

第２回大会(令和６年度･2024年)のVALORANT部門では、東日本全日制高校ブロックのオンライン予選においてベスト４に進出した。日頃のスクリムで培った戦術理解とチームプレーが発揮された結果であり、部員の大きな自信となった。

第３回大会（令和７年度・2025 年）の Apex Legends 部門では、全４ブロック合計 105 校・143 チームがエントリーする中、10 月 11 日・12 日に実施された東日本全日制高校ブロックのオンライン予選で６位の成績を収めた。同ブロックから全国決勝に進出できるのは上位５チームであり、あと一歩で代表の座に届かず、惜しい結果となったが、部員たちの確かな実力を示すものであった。



４　生徒の成長と今後の展望

大会活動を通じて、生徒たちはゲームの技術面だけでなく、仲間と目標に向かう姿勢・状況を分析する力・チームへの責任感など、社会に出ても必要とされる力を身につけている。情報・デジタル技術を学ぶ本校の生徒にとって、高度な情報処理能力や瞬時の判断力が求められるｅスポーツは専門教育との親和性も高く、本校の教育目標とも合致する活動である。

今後も、専門的な指導体制と充実した設備環境を活かしながら、部員それぞれが得意とするタイトルでの大会上位進出を目指すとともに、ｅ スポーツを通じた生徒の主体的な成長を引き続き支援していきたい。プロ志向の高い外部チームとの交流を継続し、広い視野と高い競争意識を持った人材の育成につなげていく所存である。

在校生からのメッセージ ＩＮＦＩＮＩＴＹ

大成高等学校
情報進学コース 第３学年　柳　蒼治

現在、私は大成高等学校の情報進学コースで学んでいます。この学校に入ろうと思ったきっかけは、小学生の頃からパソコンでゲームや動画制作をすることに夢中になり、そこからプログラミングなどにチャレンジするようになったことです。高校進学先に悩んでいた頃、この大成高校には他にはない情報進学コースがあることを知り、ここで学んでみたいと思い志望しました。

このコースの特徴は、普通科でありながら情報系の授業を受けられるところです。そのなかの１つである「情報実習」では、動画編集ソフトを用いた動画制作をしたり、Python のプログラムの勉強をしたりしました。「情報デザイン」では、身のまわりにあるデザインについての勉強や、オリジナルピクトグラムの作成、ポスター制作などを行いました。また、大手映像会社の方の授業も受けることができました。現在、我が国では IT エンジニアの需要が高まっています。AI の登場により質の高い IT エンジニアが求められている中で、このような授業を受けることができるのはとても素晴らしいことだと感じています。

私の将来の夢は、プログラミングや情報処理をより詳しく学び、身のまわりの生活に必要なアプリの制作や、公共施設や交通機関の IT 設備の開発をすることです。大成高校での経験や学びを生かし、実現できるように頑張りたいと思っています。

「情報実習」の授業で、校内の問題点を提起し解決策を練る研究に取り組んでいる様子

在校生からのメッセージ ＩＮＦＩＮＩＴＹ

東京都立大江戸高等学校
情報・ビジネス系列　４年　服部　麗奈

都立大江戸高校は、単位制・三部制・総合学科のチャレンジスクールです。総合学科の本校は『情報・ビジネス系列』『生活・福祉系列』『伝統・文化系列』という３つの系統を設けています。

ここでは、その中で私が多く履修している『情報・ビジネス系列』の話をしたいと思います。この系列には「IT」「簿記」「マーケティング」「ビジネスマナー」などの科目が存在し、いくつかの科目には基礎・発展科目が設けられています。また、希望者は科目に応じた検定試験を受検することができ、合格すれば単位に充てることもできます。担当の先生が早い段階から呼びかけてくださるので、受検を迷ったときも気軽に相談することができます。

他２つの系列にも「児童福祉」「フードデザイン」「伝統技法」「ヴォイスアンサンブル」など、特色ある科目が幅広く存在します。単位制なので、生徒は好きな科目を自分の力や意欲に応じて履修しています。

また、冒頭で触れたように、本校は三部制の高校です。普段は一部生が朝、二部生が昼、三部生が夜と、それぞれが別々に通っています。しかし、学校行事や部活動、ボランティアなどで他部生とも関わることができます。特に体育祭や文化祭には全校生徒で取り組みます。いずれも優勝や優秀賞を目指し、仲間やライバルと切磋琢磨しています。加えて、本校にはクラス替えがありません。それにより年々クラスの絆が深まっていくことがとても楽しいです。見慣れたクラスメイトにレアな他部生。安心感も新鮮さも感じられ、まさに一石二鳥です。

私は中学時代に不登校を経験したのですが、今ではきちんと学校に通えています。ここまで支えてくれた周囲への感謝を忘れず、日々精進していきたいです。

卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立大田桜台高等学校 令和６年度卒業
産業能率大学経営学部経営学科２年　奥村　海翔

私は現在、産業能率大学経営学部経営学科の２年生で「ブランドプロデュース」について学んでいます。

私が大田桜台というビジネスコミュニケーション科を選んだ理由は、親戚が会社を経営しており、以前からビジネスの学びに興味を持っていたからです。

入学後は様々な授業に取り組みましたが、特に印象に残っているのはビジネス教科の「商品開発と流通」です。授業の中で実際の商品について皆で考え、なぜ売れているのか、他の商品との違いは何かなどを学びました。この授業を通して、自分の進路を考える良い契機になりました。ほかに、私は英語の「多読多聴」に真剣に取り組みました。中学までは勉強全般が苦手で、特に英語は苦手意識が強かったのですが、授業はとても楽しく、ぐんと英語の力が上達しました。その結果、全商英検２級と実用英語検定準２級に合格することができました。３年生の 12 月には校内の「英語スピーチコンテスト」の代表に選ばれ、その発表をお聞きになったアメリカ大使館の方から、「素晴らしいスピーチだった」とお褒めの言葉を頂き非常に嬉しかったです。

受験の時期を迎え、私は産業能率大学を目指しました。試験内容は自己記述書とプレゼンテーションで、個別指導担当の先生と話し合い、何度も書き直し、何度も練習をし、合格をつかみ取ることができました。私は大田桜台で、丁寧に努力することや決して諦めないことの大切さを学び、自分に自信がつきました。現在は充実した大学生活を送っています。今後も大田桜台で培った粘り強さを生かして、全てのことに積極的に取り組んでいきたいです。

卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立科学技術高等学校　令和７年度卒業
職業能力開発総合大学校総合課程機械工学専攻　中井　康介

私は現在、職業能力開発総合大学校の総合課程で機械工学を学んでいます。ここは、ものづくりの技術を身に付けると同時に、その技術を人に教える指導者を養成する学校です。この道を選んだ原点は、科学技術高校の三年間にあります。

私を変えたのは「製図」の授業でした。線一本の太さ、寸法の入れ方一つで、図面は伝わるものにも伝わらないものにもなる。納得できるまで細部にこだわって描き上げた一枚を先生に認めていただいたとき、ものづくりとは技術であると同時に、受け取る相手への配慮なのだと知りました。「課題研究」では二年生から三年生まで一つのテーマを追い続けました。思うような結果が出ず、何度もやり直しました。答えが用意されていない問いに向き合う時間そのものが、専門学科の授業でした。

学びは実習室の中だけではありません。三年間続けたバレーボール部では、仲間と息が合わなければ一点も取れないことを体で覚えました。体育祭実行委員としては話し合いをまとめ、当日はクラスに声をかけ続け、リレーではアンカーを走りました。優勝が決まった瞬間の光景は、今も忘れられません。技術は、「結局は人と人の間で生きるもの」です。

今の私は、実習で誰かに手順を説明する場面が増えました。うまく伝わらないとき、いつも思い出すのはあの製図の一枚と、体育祭の日に仲間へかけた声です。あの頃、夢中で手を動かしていたことが、こんな形で自分を支えるとは思っていませんでした。

中学生の皆さん、今、面白いと思えることを、まずは手を動かして確かめてみてください。その積み重ねが、いつか自分の進む道になります。

産業界からのメッセージ「会員企業の紹介」

株式会社第一成和事務所　代表取締役社長　八代　元行
〒103-8214 東京都中央区日本橋馬喰町 1-12-3 Daiwa 日本橋馬喰町ﾋﾞﾙ３階
TEL 03-3669-2831

【会社の概要】

株式会社第一成和事務所は、損害保険および生命保険を通じて、個人のお客さまの安心で豊かな暮らしをお守りするとともに、学校・中小企業・一般社団法人をはじめとする法人のお客さまの安定した事業発展を支える保険代理店です。

1957 年、東京海上（現・東京海上日動）の代理店として創業して以来、長年にわたりお客さまとの信頼関係を大切に歩んでまいりました。1972 年には、株式会社第一成和事務所を設立し、現在では損害保険会社・生命保険会社・少額短期保険会社など、20 社を超える保険会社と代理店委託契約を締結。多様化する時代のニーズにお応えする幅広い保険商品を取り扱っています。

私たちは「正確・迅速・丁寧」を信条に、お客さま一人ひとりの状況やご要望に真摯に向き合い、きめ細やかなサービスと最適な保険提案を通じて、確かな安心をお届けしてまいります。

【メッセージ】

当社は、企業理念として「和と誠実を旨として社会の発展と豊かな暮らしの創造に寄与する」を掲げています。社名に込められた「和」と「誠実」の精神を礎とし、社員一人ひとりがその想いを胸に、お客さまの暮らしと事業を支える存在であり続けることを使命として日々の業務に取り組んでおります。

創業以来、多くのお客さま、そして共に歩む社員に支えられ、今日では社員数も 50 名近くとなりました。これまで培ってきた信頼をさらに深め、損害保険・生命保険の専門性を磨き続けることで、時代の変化に的確に対応した質の高い保険サービスを提供してまいります。

今後も、お客さまとともに歩み、明るく、誠実に、そして社会に貢献できる企業として一層の成長を目指してまいります。引き続き変わらぬご支援とご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

産業界からのメッセージ「新会員企業の紹介」

東京都商工会連合会　専務理事　渡辺　由佳
〒196-0033　東京都昭島市東町 3-6-1 TEL042-500-1140（代）

【会社の概要】

東京都商工会連合会は、都内 27（島しょ地域を含む。）の市町村に設置された商工会を会員とする民間の経済団体です。商工会は、商工会法により設立され、地区内の小規模事業者や創業予定者を対象とした経営指導や金融相談など、経営や技術の改善発達を支援する経営改善普及事業を実施する中小企業支援機関としての役割を担っています。また、企業からの生の声を集約し、国や東京都などの行政や政治に対して要望活動を行っています。地域振興活動では、地元市町村と協力し産業祭などのイベントを開催するなど、地域を活性化するための様々な活動を行っています。

【メッセージ】

商工会には、先端技術や微細な加工技術などを有する優れたものづくり企業や、地域に根差した特色ある企業などが多数加入しています。

こうした企業は、生徒の皆さんが将来の進路を考える際、有望な選択肢の一つとしての可能性を秘めています。

また、多摩地域には大学や企業の研究機関が多数集積しており、今後のさらなる発展が期待されています。生徒の皆さんに地元の企業で活躍していただけるよう、会員企業の魅力発信と地域の学校との連携に努めてまいります。

令和８年度葛飾区産業教育懇談会を開催

５月 14 日(木)「テクノプラザかつしか」を会場として、令和８年度葛飾区産業教育懇談会を開催しました。はじめに大塚喜司東京商工会議所葛飾支部会長、西澤宏繁東京都産業教育振興会会長よりご挨拶を頂きました。続いて、杉野行雄東京商工会議所工業分科会会長、大塚耕一東京商工会議所葛飾支部情報・サービス分科会評議委員（青年部副幹事長）が趣旨説明を行いました。次に、「アントレプレナーシップ教育の推進について」松尾康弘東京商工会議所葛飾支部事務局長から説明を頂きました。その後に行われましたパネルディスカッションでは、「葛飾区の未来を担う産業人材の育成について～地域一丸となった教育推進の重要性～」をテーマに行われ、多くの質問に対して活発なご意見交換がなされました。

また、パネルディスカッションの感想を市川茂葛飾区教育委員会教育長、河野敏弘東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当）、小林治彦東京商工会議所常務理事（本会副会長）より頂きました。さらに、来賓挨拶を青木克徳葛飾区長、岩井宏公益財団法人産業教育振興中央会専務理事より頂きました。

おわりに、金子昌男東京商工会議所葛飾支部副会長（本会副会長）に閉会の挨拶を頂き、閉会となりました。東京商工会議所葛飾支部の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

産学懇談会(第１回)を都立芝商業高校で開催

６月 25 日(木)、東京都立芝商業高等学校を会場として、本年度第１回の産学懇談会を開催しました。都立芝商業高等学校は、竹芝旅客船ターミナルに近い東京都港区海岸一丁目にあります。全日制の商業科を設置した都立専門高校です。1924 年の開校以来、長い歴史と伝統の中で実践的な商業教育を行っており、１年次でビジネスの基礎を学び、２・３年次には進路や興味に応じた専門科目を選択し、実社会で役立つ知識と技能を身に付けています。簿記や情報処理など資格取得指導にも積極的に取り組んでおり、就職・進学の双方に対応した進路支援体制が整えられています。また、企業や地域と連携した体験的な学びを通じて、主体性や課題解決力の育成にも力を入れています。

はじめに、東京都教育委員会を代表して加藤弘東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長（東京都産業教育振興会常任理事）、山田和人会場校校長よりご挨拶を頂き、その後、都立芝商業高校の先生方の案内にて、授業見学を行いました。特に生徒が積極的に授業に関わり、生き生きとした姿を見られたことが印象深いものでした。見学後、当会の小林治彦会長よりご挨拶を頂きました。続きまして、学校概要を山田和人校長、商業科の特色ある取組について商業科主任の重松友弥主任教諭より説明を頂きました。その後、懇談会に移り、学校の現状と課題、教育活動への期待について、意見交換を行い、有意義な機会となりました。おわりに、金子昌男副会長から謝辞を申し上げ、閉会となりました。都立芝商業高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

令和８年度東京都産業教育振興会総会及び講演会の報告

【総会】

６月 16 日(火)に東京商工会議所渋沢ホールにて開催しました。

開会の挨拶を西澤宏繁会長、秋田一樹常任理事（東京都教育庁都立学校教育部長）に頂き、引き続き、来賓祝辞を岩井宏公益財団法人産業教育振興中央会専務理事、後藤洋士東京都公立高等学校長協会会長、重山直毅東京都中学校会会長に頂きました。その後、総会議事に移り、事務局から３件の報告、事業報告案など７件の議案を提案し、審議の結果、全議案とも原案どおり承認されました。なお、西澤宏繁会長は退任されましたが、顧問として今後とも当会へ尽力されることとなりました。新会長は、東京商工会議所常務理事の小林治彦氏を選任いたしました。

続いて、産業界会員功労者（永年会員）表彰を「５団体〔(株)興銀不動産開発、(株)第一成和事務所、ドリームガーデンズ(株)、日本広告(株)、(株)ハチオウ〕」を表彰いたしました。

今年度の役員を以下に紹介します。

会　長　小林　治彦（新任）
（東京商工会議所　常務理事）
副会長　金子　昌男（留任）
（株式会社カナック企画相談役）
副会長　並川　直人（留任）
（東京都立農業高等学校長）
理事長　坂本　雅彦（留任）
（東京都教育委員会教育長）
常任理事　秋田　一樹（新任）
（東京都教育庁都立学校教育部長）
常任理事　峩下　英男（新任）
（東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長）
常任理事　加藤　弘（新任）
（東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長）
常任監事　廣瀬　直樹（新任）
（東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括課長代理）

【講演会】

総会終了後、講演会を開催しました。中川直毅名古屋芸術大学教育学部教授を講師として、「よもやま話しで、キャリアと労働法とコンプライアンスを考えていく～スキルの『矛』と身を護る『盾』でステキな職場を目指していこう！！」という演題で行われました。講演内容は、３月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育」第 64 号にて紹介いたします。

（講師のプロフィール）

名古屋芸術大学 教育学部教授、前キャリアセンター長。特定社会保険労務士。学校法人名古屋自由学院 法務コンプライアンス室長、評議員会副議長。京都市出身。東京都足立区在住。京都産業大学卒、青山学院大学大学院法学研究科修士修了。東証上場の大手素材メーカーや製薬会社、電気機器会社などで、人事部長、法務室長、人事総務部長などを経て、現職。専門は、労働法と憲法制定史。豊富な、人事労務・法務の経験を活かして、企業や大学のコンサルティングや大学教育に携わっている。また、地方自治体でのハラスメント関係などの学識委員など多数の公的職務も兼職。

令和８年度「作文コンクール」作品募集

主　　催　東京都産業教育振興会
後　　援　東京商工会議所
応募資格　会員校に在籍する生徒・学生
応募締切　９月１１日（金）
表　　彰　入選者には表彰式（12 月 22 日（火）東京商工会議所）において本会より賞状並びに賞品を授与します。
選外者にも参加賞を贈呈します。

※詳しくは、ホームページを御覧ください。

事務局より

令和８年度「会報」第 170 号をお届けいたします。発行に際し、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。

発行　東京都産業教育振興会
住所　〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話　03-5320-6729
ホームページ　https://www.tosanshin.org/
印刷　教育庁サポートオフィス パレット